

2024年11月15日 県立神戸甲北高等学校

神戸の研究 「阪神淡路大震災と神戸」
出前授業【神戸新聞NIE・NIB推進部 三好正文シニアアドバイザー】



受講生徒感想

・今回、三好さんからお話を聞き、学んだことは「避難所に到着しても災害関連死をする人が一定数いる」ということです。避難所は安全で、そこにたどり着くことができれば安心できると思っていましたが、やはり現実には厳しくいろいろな問題があるということを知り、勉強になりました。

・復興に関して、神戸を中心とした大きな震災で被害を受け、ショックを受けている人が多いなかでも、結婚をした人がいつという明るいニュースがあったり、前を向いて神戸の復興に協力する人がいたり、厳しいなかでもポジティブに考えて行動する人たちがいたことが、とても感動しました。震災が起こる起こらないにかかわらず、そういう人になりたいと思えました。

・今回三好さんに来ていただき、いつもは動画や画像、実際に体験した話でその場1つの場所の話しか分からなかったけど、記者の方の話はたくさんのさまざまな場所の体験がどうだったか分かり、新たな学びになりました。その時に仕事をしていた人たちが、どういう状況だったのかがよくわかり、よかった。

・震災の時と比べると今はかなり復興してきていますが、今も全国各地で地震が起きていて、神戸の復興を例に復興することができたらいいなと思いました。また、震災直後の新聞は、途中からポジティブな内容が書かれていて、ポジティブになることの大切さも学べた気がします。

・市役所や新聞社での復旧・復興を進めていく中で、被災者や命の助かった住民の望みを第一優先に復興を進めてきたのだということがよくわかり、感動しました。神戸に住む高校生として、三宮の今の姿なども、震災があったからこそ完成していると考ええるとすごいことだなと思うし、自分が災害に直面したときのことを考えさせられました。

・地震が来てパニックになって大変で身動きがあまりできない状況で、正確で安心な記事を出すために現場へ向かい被災者の話を聞くという記者さんのすごさを痛感しました。また、日頃からの対策や助け合いができるような人間関係づくりも大切なことだなと思いました。

・阪神淡路大震災を通して、次いつくるか分からない地震対策、避難訓練、地震を経験していない人たちへ語り継ぐことが大切だと学んだ。他人事ではなく、いつ被災しても大丈夫になるように、たくさんの人が地震について知ることが大きな被害を減らすために必要だと感じました。

・阪神・淡路大地震による地盤のずれで、明石海峡大橋が1.1m伸びたことにはとても驚きました。神戸だけでなく、阪神間の多くの地域で被害が大きかったことを改めて知ることができてよかったです。いつ起こるかわからない地震の対策を、日常からしておかなければならないなと感じました。

・実際に震災を体験した三好さんの話を聞いて、今までで一番「リアル」に感じることができました。三好さん自身は、何度か地震を経験しているかわ割と冷静だったと言っていたけど、自分だったらそんな風には思えないと思います。この震災を忘れないように、地震体験や、津波の勉強、南海トラフの勉強など、色々なことを学校の中に取り入れていくことが大切だと思いました。私は将来教師になりたいと考えています。これから自分たちが生きている間に起きると言われている南海トラフに対しての知識や、その他の震災のことをしっかり勉強していくことの重要性を感じました。

・当時的大変さはやっぱり体験しないと分からないことがあるけれど、たくさん話を聞いて絶対に忘れてはダメなことだと改めて感じた。新聞記者の人たちが情報を届けようとどれだけ必死なのかを知ることが今までなかったので、貴重な経験だった。スマホやテレビが見れないときに情報を知ることができて、すごく安心した人がいるのではないかなと思う。

・復興には数えきれないくらいたくさんの人たちが関わっていることを知り、「人の力」のすごさを実感した。「ひとりひとりが頑張って生きようとする」ことが復興には大切なのだと考えます。未来に前向きに生きていこうとするのが一番大切で、この姿勢はこれから大切にしていきたいです。